



「エンドウ マメ科の連作に注意」

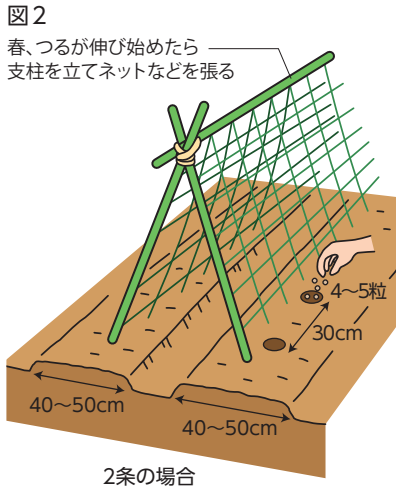
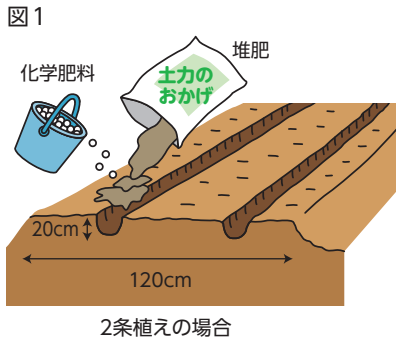
エンドウには若いさやを食べるサヤエンドウ、実が大きくなり、みずみずしいさやのスナップエンドウ、そして若く充実した豆を採る実採りエンドウがあり、それぞれ目的に応じた品種を使います。

【品種】

サヤエンドウでは、「つるあり赤花絹莢えんどう」(不二種苗、つるありで「絹さやえんどう」(トーホク)など、スナップエンドウでは、「あまいえんどう」(つるあり、つるなし)(トーホク)などがあります。

【畑の準備】

マメ科野菜は、同一の畑で連作すると生育障害が出やすく、4〜5年はマ



メ科を入れていない畑を選びましょう。種まき2週間前に畑1m当たり苦土石灰100gを全面に施し、土とよく混ぜておきます。次に、1週間前に畝幅120cmを取り、深さ20cmの溝を掘り、溝1m当たり化成肥料(NPK各成分で10g)100gと堆肥1kgを入れ、土とよく混ぜます。1条または2条なら幅40〜50cmの畝を2つ作ります(図1)。

【種まき】

一般地では10月中旬から11月上旬が適期で、早まきして年内に生育が進み過ぎないことが大切です。草丈が10cm程度で冬越しさせないと、耐寒性が弱くなり苗が傷んでしまいます。じかまきでは、株間30cm程度、1力所4〜5

粒をまきます(図2)。発芽の頃に鳥害を受けやすいため、不織布をべた掛けして保護します。発芽がそろったら2本を残し、他は間引きします。なお、小さなポットで育苗して、本葉2枚の頃に畑に植え付けることもできます。

【追肥】

春先に生育の勢いが良くなり始めた頃と開花始め頃にそれぞれ化成肥料を畝1m当たり10g程度、スナップエンドウ、実採りエンドウではさらにさやの肥大期にも同様に追肥します。追肥後は株元に土寄せをしておきます。

【支柱立て】

早春から生育が盛んになり、つるあり種ではつるを絡ませるため支柱を立てネットを張ります。

【病害虫防除】

さやができる頃からハモグリバエが多発しますので、馬拉ソン乳剤などを使用基準に従って使い防除します。うどんこ病には、カリグリーンなどの農薬で防除します。

【収穫】

サヤエンドウは、子実の肥大が始まる頃で、開花後15日前後、スナップエンドウはさやが鮮緑色で豆が肥大して断面が円形になる開花後25日前後です。

緑色が恋しい春にぜひ作って！ 鮮やかグリーンサラダ

鮮やかな緑色の野菜だけをたくさん取り合わせるサラダです。エンドウの香りや歯ざわり、促成栽培のキュウリの青臭さも、いかにも「春が来た」という実感をくれます。緑色の中にゆで卵の黄色と白が映えます。

絹サヤまたはスナップエンドウ	適量
新タマネギ	1/2個
キュウリ	1〜2本
茹で卵	3〜4個
ブロッコリー、アスパラガスなど	緑の野菜を好みで



①新タマネギはスライサーか包丁で出来るだけ薄く切って水にさらす。
②エンドウ、ブロッコリー、アスパラガスなどは色よく茹でる。
③①、②を合わせ、半分に切った茹で卵とともに器に盛る。マヨネーズまたは好みのドレッシングでいただく。

※茹でた筍やウド(短冊に切る)を加え、胡麻ドレッシングでいただくのもおしこです。